

東京湾再生官民連携フォーラム 令和元年度 第1回企画運営委員会

1. 開催日時 令和元年 5 月 28 日(火)16:00～18:00
2. 開催場所 スタンダード会議室 虎ノ門SQUARE店
東京都港区虎ノ門1-15-10 名和ビル4階

3. 議事次第

《審議事項》

- (1)平成 30 年度事業報告(案)、決算(案)及び監査結果について

《報告事項》

- (1)PT活動報告
- (2)PTの政策提案予定
- (3)CSR-NPO 未来交流会 2019 について
- (4)令和元年度PT長会議について
- (5)東京湾クリーンアップ大作戦 2019 について
- (6)経団連自然保護協議会「2019 年度シンポジウム・企業とNGO等との交流会」参加報告
- (7)その他

4. 出席者(敬称略)

來生委員長、佐々木委員、古川委員、岡本委員、岡田委員、妙泉委員、斉藤委員、牧野委員、工藤委員、吉野代理、竹口委員、芝原委員、富山代理、加藤代理、成川代理、中野委員、富樫代理、三上代理、庄山代理、羽田委員、仲澤代理、藤澤代理、蝦名委員、永井代理、張能代理、齋藤代理、夏目委員、細川(事務局) 28 名出席

5. 議事メモ

5-1 開会

(1) 事務局確認事項

交代委員の紹介と出席委員の確認、配布資料の確認

(2) 開会挨拶 (委員長)

元号が変わって令和元年第 1 回の企画運営委員会です。4 月の定期異動で新委員となった方もあり、よろしくおねがいします。

5-2 議事

《審議事項》

- (1)平成 30 年度事業報告(案)、決算(案)及び監査結果について

【決定事項】

平成 30 年度事業報告(案)、決算(案)及び監査結果について、事務局(案)のとおり承認された。

【審議説明】

(事務局) 資料 1-1、1-2、1-3 を用いて説明

資料 1-1 の説明

平成 30 年度実績をまとめている。前回の会議でも概要をご紹介し、さらにアップデートしている。「事業項目」に主な活動を一欄記載し、4 ページ以降「事業実施経過と成果」で個別の項目を説明している。活動の柱は、東京湾での海水浴復活の方策検討PTのご尽力もあり、まず政策提案を実施した。二番目は連携事業の推進を行い、多様な連携方法を模索した活動をフォーラム内部、外部へと交流を図った。それが(1)～(6)までとなる。3. はフォーラム主催の活動、4.5. は会議体の実施、6. は法人化の検討、7. は、9つのPT活動の開催実績、8. は統一した旗印のもとに集まった感謝祭の実施、9. はフォーラムが後援した実績、10. は会員の実績となる。

特徴的な実績を説明する。①. 政策提案は、11 月に海上保安庁 三浦参事官に來生委員長から手渡された。これで 4 つの政策提案の実績となった。事務局もサポート協力していく。

②. 連携事業の推進では、CSR-NPO未来交流会を実施した。具体的な参加者の情報は 8 ページから記載している。14 ページから環境市民助成金セミナーに参加による広報活動。またスタンプラリーは、東京湾の窓PTが主催し、市民との結びつきを図ることができ施設の認知のきっかけとなった。16 ページはPT長会議を開催し情報共有の場づくりを行った。また、さらに一歩進めて、共通事項の掘り下げの場として、PT未来クロス会議を開催した。経団連保護協議会主催の「企業と NGO 等との交流会」に参加し、企業との交流の幅を広げる活動を行った。以上が連携・交流の促進である。

③. フォーラム主催の活動では施設見学会を開催した。東京港野鳥公園の新しい干潟の見学会と東京港の施設見学会を実施し、東京都港湾局の講演をお願いした。④. 18 ページの 4 からは会議体の報告となる。21 ページからはプロジェクトチームの活動を記載している。PTの会議、幹事会などの開催や活動項目を記載している。生き物生息場づくりPT、東京湾大感謝祭PTでは、多くの会合を持っていただいた。

⑤. 29 ページ、東京湾大感謝祭を開催し、3 日間で来場者 10 万 5 千名となった。また多様な団体組織の支援協力を得ることができた。30 ページには、フォーラムが後援した実績。30 ページ 10. では、事務局からのメール配信し、2 週間に 1 回程度会員へお届けしている。31 ページでは会員総数等を記載。32 ページには、具体的な情報発信の活動を記載している。最終ページには支援に対するお礼の言葉を記載している。

資料 1-2 の説明

決算報告は、収入の部、支出の部から構成されている。

収入の 400 万円は、(一財)セブン-イレブン記念財団からの助成金である。寄付金は、赤木乳業株式会社と個人とからである。

支出の部は、事務局経費、事業費に分類されている。事務局経費は人件費(昨年度並み)そして運営費(会場費、通信費など)を計上している。事業費は、交流会、施設見学、フォーラムの広報など主催事業の経費である。予算に対して実績額と差額を記載している。セブン-イレブン記念財団の助成ルールとしてプラスの差額はお戻しするという事になっている。さらに、助成対象外の支出については寄附金収入からの支弁を計上している。

本日ご欠席ですが、風呂田様、大浦様による監事監査を実施し監査報告を頂いている。

資料 1-3 説明

監事からのご指摘、助言を事務局がまとめたものである。1～5 が、その指摘事項となっている。それを受けて事務局では、以下を検討していく。

- 1.については、本年度、PT活動の施設展示や施設での講演会などでの発表を検討していく。
- 2.については、フォーラムアンバサダーの社会的認知をあげるため、アンバサダーを囲んで、議論をする場ができないか検討していく。
- 3.企業の参加については、企業との交流をさらに推進するという事で検討していく。
- 4.政策提案について、その後の取り扱いについてレビューしておいた方が良いと思われる。東京湾再生推進会議とも相談を図りながら何らかのアクションができる方向で検討していく。
- 5.東京湾の日など新たな企画に向けてどんなことができるのか、意識して活動し、渋滞感を払しょくしていく。

【審議経過】

(議長)

まず、年度報告について審議する。

(古川委員)

資料 1-1 では、4 ページ、資料 1-3 の 4 番目で、政策提案が重要な活動である旨記載されているが、年度報告書でも提案内容を(参考資料でもよいから)掲載すべき。また、フォーラムHPに平成 30 年度政策提案「東京湾奥での海水浴復活のための第一次政策提案」を掲載すべき。

(事務局)

報告書では、記述の省略をしてしまっているのので、参考資料として記載する。また、フォーラムHPにも掲載する。

(佐々木委員)

事業報告書の「生きもの生息場づくりPT」の箇所、21 ページ～23 ページの中で、3 月 26 日第二期第 10 回のPT会議の追記をお願いします。

(竹口委員)

27 ページ 第 4 回開催のパブリック・アクセス方策検討PT会議の追記をお願いします。

(議長)

平成 30 年度報告書については、指摘の追記を行うことで承認いただく。

決算についても承認いただいた。

次に監事監査指摘事項について、ご意見ををお願いします。

(議長)

項目 4、政策提案に対する行政側の反応をピックアップすることは難しいので、例えば推進会議側の「東京湾再生行動計画(第Ⅱ期)」の中間評価の機会に、フォーラムからの提案について取りまとめて対応状況などに触れることが可能ですか？行政側からのなんらかの情報提供を頂くなど、どのような方策があるか検討が必要。官側から情報を頂いて、このような会議の場で情報共有できると活性化できると思う。

項目 5、「東京湾の日(仮称)」について、具体的中身は決まっていないが、行政側から何らかのメッセージを出していただき、何らかの仕掛けができるのではないかと。行政側からのご意見があればと思う。

(富山代理)

政策提案について、どのようなアウトプットになるのかご相談し、フォローアップをしていく。

(工藤委員)

フォーラムの経験時間の経過と共に、分析評価していく必要がある。その中で交流会の理念は良いが、まだ一つ盛り上がりには欠けると感じているがどうか

(事務局)

交流会は企業とNPOのお見合いの場として始まり、内容を変化させながら実行してきている。企業に関しては、DMなどでご案内しているが、レスポンス的には鈍いので、経団連さん、(一財)セブン-イレブン記念財団さんのご意見を頂きながら魅力的なプログラム構成を検討しつつ実行している。

(竹口委員)

書かれていることは、もっともなのだが、現実との調和の議論が必要。決算書を見ればわかるように、事務局は1名。例えば監事指摘のように、アンバサダーの活用戦略や民間への働きかけを行うにはある程度体制の問題が出てくる。私たちはPTをやっているのが精いっぱい、他の検討はできていない現実がある。法人化の検討で新法人の財政基盤づくりとその推進体制の充実を図るといった努力と同時並行でないと、今の体制のままでは無理が出てくる。バランスのとれるレベルでの現実的な対応を考えてよいと思う。

(芝原委員)

谷津干潟自然観察センターでは、毎年企業のCSR活動を受け入れている。企業はCSR活動の場を求めている。行政が運営している施設が受け入れの場となっている実態がある。フォーラムの交流会で、NPO法人に限らず企業との接点の場を作っていくことが可能かと思う。

(古川委員)

政策提案の評価に対して、官側、推進会議に積極的に働きかける必要がある。前回の中間評価では東京湾再生官民連携フォーラムに意見照会が来ていた。もし今回もあるのなら、企画運営委員でも気を付けて、政策提案への対応についての報告が含まれているのかチェックし、必要な評価の追記をお願いしたらどうか。体制の問題もあるので、例えば、企画運営委員会の中でボランティアを募り、準備をして推進会議の中間評価に備えてはどうだろうか。

(富山代理)

今回の中間評価も前回の通りフォーラムにフィードバックする予定。スケジュールに関しては次回の会議を待たずに、フォーラムの皆様にお伝えし共有させていただく。

(議長)

いろいろ有益なご意見を頂いた。事務局で整理し、これからの活動に反映してください。

《報告事項》

(1)PT活動報告

東京湾大感謝祭PT

【報告】(吉野代理)資料2-1を用いて説明

先週の東京湾大感謝祭実行委員会で決算報告が行われた。各年度収入合計と支出が同額となっており、準備費で調整している。

資料2-1が今年度の出展案内である。今年からSDGsをテーマに大きく取り上げる予定でそれにあ



わせて、出店者を募っていく予定。会期は本祭、10月26日(土)、27日(日)を予定し、プレイベントとして、大さん橋ホールにおいて10月19日(土)、20日(日)はBLUE CAMPを開催予定。3ページ目は、出展のイメージである。「海の学び場」応援プランのコーナーを設け、フォーラム会員の無料出展を募っているが、企業の応援プランとしても協賛を募っていく。5ページ目はSDGs推進と発表・交流の場として各コーナーを設定している。それぞれのコーナーの参加を募っている。参考資料に関連活動を紹介している。

PT発表の場として東京湾大感謝祭を出展活用していただき、またステージもまだ空きがあるので、PRに利用できる。

東京湾環境モニタリング推進 PT

【報告】(古川PT長)資料 2-2

東京湾環境一斉調査について、東京湾再生推進会議が6月3日公示。東京湾環境一斉調査は、東京湾再生推進会議の大きな行事で、9都県市、湾岸自治体、さらに東京湾モニタリングPTが主催となっている。フォーラムでも主催できるような枠組みとなれば個人的には良いと思っている。この調査は、再生推進会議、自治体と一緒にしているので、広報等も各自自治体を通して隅々まで情報が行き渡る。また、調査結果も隅々から返ってくる。そして海上保安庁に報告書を提出している。5ページに参加申込書がある。6月19日までに集めることになっているので周知期間が短い、参加のご検討をお願いする。

「生物調査にあたっての特採許可指導」については、「東京湾再生官民連携フォーラム」「東京湾の環境をよくするために行動する会」のご協力を得て対処していきたい。10ページ目に、東京湾の再生に取り組む企業・団体に関する調査として、指標活用PTの調査アンケートも取り上げている。

指標活用PT

【報告】(岡田PT長)資料 2-3 を用いて説明

この場を借りてご協力をお願いをしたい。赤字で記載している部分が企画運営委員会ご出席の方にご協力をお願いしたい部分となる。行政が収集しにくいデータを指標活用PTが行う箇所、「市民データ収集」に関して指標項目の並んでいる部分である。A-5 の海ごみに関しては、PTから東京湾再生推進会議に依頼して、そこから各自自治体の港湾部局に依頼し、次に港湾部局から海浜公園などの管理者、市民団体などへアンケート用紙の配布となる。市民団体へのアンケート配布実施を行いたいので、各自自治体の港湾部局には是非ご協力をお願いしたい。同様に、A-6、A-8 もお願いしたい。

B-2に関しては、指標活用PTから漁業組合の方にアンケートをお渡ししたい。是非、ご協力をお願いしたい。B-7 の江戸前の地魚・魚介類の販売箇所数・イベント数に関しては、指標活用PTから漁業組合に、もう一つは江戸前ブランド育成PTにご協力をお願いしたい。D-7 東京湾の環境に対して取組を行っている企業・団体数の数は、モニタリング分科会の一斉調査参加者募集時に併せて、アンケート回答依頼を実施。これに当たり、フォーラム事務局HPを利用掲載したいのでよろしく願いする。経団連自然保護協議会様へのHP掲載もお願いしたい。

再生行動計画の中間評価に向けては、「データ整理ワーキンググループ」で、指標データの中間評価に向けて解析方法が整い、9月頃まで原稿を作成する予定となっている。指標活用PTも東京湾再生推進会議をサポートしていきますのでよろしくお願いしたい。

(2)PTの政策提案予定

東京湾パブリック・アクセス方策検討 PT

【報告】(竹口PT長)口頭説明

第一次提案では骨組みを提案した。その際の積み残し課題を検討した結果がまとまり、全体をよりわかりやすくまとめた。中身の変更ではなく全体をわかっていただけのように改めて書き直しまとめることができた。今後、関係先、事務局におけるスケジュール管理に沿って運びたい。

東京湾の窓PT

【報告】(芝原PT長)口頭説明

次回の企画運営委員会に案を提出したいと思っている。スタンプラリーなどの経験を活かして、自治体が運営している施設の活用をもっと促進できるよう取り組んでいきたい。

(議長) PT活動報告について質疑をお願いする。

特になし

(3)CSR-NPO 未来交流会 2019 について

(事務局) 資料 3 を用いて説明

CSR-NPO 未来交流会の実施の企画案となる。11 月に個人、組織でも参加できる東京湾クリーンアップ活動を計画している。その準備のために、市民、企業等と一緒に学習していく企画案となっている。それぞれの立場から海に対するプラスチックゴミの考えを講演していただき、何ができるか議論していきたい。

(4)令和元年度PT長会議について

(事務局) 資料 4 を用いて説明

8 月下旬ごろお集まりいただきPT同士の連携をやりやすくできるサポートを行っていきたい。今年、東京湾窓PTの協力もあり、11 月に谷津干潟自然観察センター、大森海苔のふるさと館などでの展示を計画し、PT活動の展示やミニシンプの開催ができないか検討している。

(5)東京湾クリーンアップ大作戦 2019 について

(事務局) 資料 5 を用いて説明

プラスチックゴミの問題に絡めて、クリーンアップ活動を進めていく企画となっている。全体では 7 月のCSR-NPO未来交流会や環境省スマートプラスチックキャンペーンに参加し、自分たちの知識理解を深めながら 11 月のクリーンアップ大作戦に結び付けていきたい。候補地、実施方法はまだ議論の余地のあるところだが、(一財)セブン-イレブン研究財団からの支援を受けながら活動を実施していきたい。

(6)経団連自然保護協議会「2019 年度シンポジウム・企業とNGO等との交流会」参加報告

(事務局) 資料 6 を用いて説明

経団連自然保護協議会の交流会に参加し、フォーラムのPRを実施してきた。フォーラム活動や海ごみ海洋プラスチックなどについて参加者へ説明をした。

(議長)事務局報告でご意見があれば伺う。

(吉野代理)

東京湾クリーンアップ大作戦を11月に実施する計画であるが、資料2-1 東京湾大感謝祭実行委員会で、SDGsアクションといくことでカレンダーをまとめた。1月～12月まであり、11月には東京湾UMIプロジェクトがアマモの種まき活動などを行っている。また、7月には関東地整さんが行っている東京湾クリーンアップ大作戦がある。こういうのとセットで実行されたらいいかと思った。

(議長)全体を通してご意見があれば伺う。

(議長)

放送大学では231chで生涯・社会教育があり、東京湾をテーマにして企画を立てたいので、さまざまな活動を紹介するコンテンツを作成したい。コンテンツの作成にあたりご協力をおねがいしたい。

(事務局)参考資料について

7月、9月企画運営委員会の開催を前提に、政策提案の審議スケジュールを示している。意見照会を含めて、提案書(案)のブラッシュアップをしていただければと思う。

5-3 閉会

委員長が閉会を宣言

以上